

The background of the slide is a light gray gradient with several realistic water droplets of various sizes scattered across it. The droplets have highlights and shadows, giving them a three-dimensional appearance.

保育者養成における 保育者の身体性に対する理解に向けて

華頂短期大学 眞崎雅子

1. 背景①

保育者に求められる身体性とは

「保育者—子ども」間の信頼関係の構築に欠かせない基盤

子どもの心を自分の身体を通してわかろうとし繋がろうとする、
保育者の身体の働き（「養護」と「教育」を一体的に行う保育実践を支える）

- ・「お互いのことが身に染みてわかる」(鯨岡2012)
- ・「共に生きる姿勢をもてるよう自己身体を還元する」(鯨岡2016)

保育学生の、保育者の身体性に対する理解の支援に向けて
保育場面の動画観察を通して視点の傾向を調査した(眞崎ら2023)

2. 背景②

・先行研究(眞崎ら2023)

保育学生による保育場面動画「リズム表現遊び」の観察記録から、教示の有無による保育学生の視点の傾向を調査した。

その結果、教示無しの動画視聴では、子どもの個々の行動や全体の状況把握などに視点が集中した。一方、2回目の教示により「保育者と子どもの繋がり」に着目させた場合、観察の視点は、保育者の「**接面に向かう身体的行為**」に向けられた。視点カテゴリーとしては、「共振(共鳴)」(双方向的)、「発信(共振)」(一方向的)、「応答(誘導)」、「受容(理解)」、「環境(背景)」の5つが見出され、さらに11の下位カテゴリーで構成された(表1に示す)。

先行研究(眞崎ら2023)の結果

表1 保育者と子どもとの繋がりを捉える視点の分類カテゴリと記述例 (眞崎ら2023)

分類	視点 カテゴリ	下位 カテゴリ	記述 数	説明	記述例
接 面 へ 向 か う 身 体 的 行 為	共振 (共鳴)	スキンシップ	10	共振・共鳴に向かう触れ合い	手を繋いで、膝にのせて、など
		共同	13	一緒に活動、姿勢や動きの共有	一緒に、リズムに合わせて、など
		目線	14	お互いの目線を合わす	目を見て、目線を合わせて、など
		計	37	(15人/16人中が記述)	
	発信 (共振)	身体掛け	23	身体表現・誇張動作・共振的反応	大きな動作で、紙をヒラヒラさせて、など
		声掛け	14	意欲喚起、共振に向かう声掛け	大きい声で、一言声をかける、「せーの」と声をかけ、など
		計	37	(16人/16人中が記述)	
	応答 (誘導)	問いかけ	7	問いかけ、聞く	話を聞く、許可を求めて、など
		見本	17	見本を示す、実演する	前で踊る、ピアノを弾き、など
		計	24	(14人/16人中が記述)	
	受容 (理解)	見る	8	個々・全体を見る	高い目線で、一人ひとりをしっかり見ていた、など
		見守る	4	怒らずに見守る、受け止める	怒ることはせずに、注意をしたりするのではなく、など
		計	12	(7人/16人中が記述)	
環境 (背景)	環境	2	物的環境の構成	環境づくりを行って、座る位置を示し、など	
	誘導	9	人的環境の配置、誘導	位置まで連れて行って、二人の保育者が付き、など	
	計	11	(8人/16人中が記述)		
考 察	考察 (解釈)	考察	18	援助への理解を促す記述	園児との信頼も築きやすい、褒めることを大切にしている、など
		意図	23	身体的行為の意図への言及	興味を引こうとして、子どもの気持ちを盛り上げるように、など
		計	41	(14人/16人中が記述)	

3. 目的

先行調査で得られた視点カテゴリーに基づき、異なる保育場面動画の観察記録から、保育学生の視点の傾向を確認し、保育者の身体性への認知を促す手立てを得ることを目的とする。

4. 方法①

【調査日】

2022年4月

【対象】

A大学の保育者・教員養成に係る授業を受講した2年生17名

【視聴映像】

B幼稚園の日常保育の中の、カメラマンによる「写真撮影」の場面(3分間)。

全員が椅子に座り笑顔になる瞬間を捉えるため、保育者らが様々に声掛けする中、写真撮影を嫌がって走り出す2歳のC君とD保育者のやりとりが繰り広げられる。

4. 方法②

【調査の手順】

写真撮影の場面映像(3分)を2回視聴する。(本発表の分析対象は2回目の記述のみ)

・1回目の視聴

教示無し→「動画を見て感じたことや気づいたこと」を自由に記述させた。

・2回目の視聴 (分析対象)

教示あり→「映像の中の保育者が、**子どもと繋がるためにどのようにかかわっているか**、動画を見て感じたことや気づいたこと」を自由に記述をさせた。

4. 方法③

【分析】

保育者と子どもの繋がりに着目して観察した17名の自由記述を、それぞれ意味のまとまりごとに分節化し、先行研究のカテゴリーに基づき分析した。

【倫理的配慮】

10項目(個人特定につながらないこと、不参加による不利益を被らないこと、守秘や個人情報、データの取扱いについてなどが含まれている)からなる研究内容の説明を書面により実施し、研究参加同意書に署名、提出をもって参加の同意を得た。

5. 結果

保育学生の動画視聴において、教示を通して「保育者と子どもの繋がり」に着目させた場合、保育者の身体性に関する記述は、「接面に向かう身体的行為」の視点カテゴリー5つのうち、記述の多かった順に、「共振(共鳴)」、「発信(共振)」、「受容(理解)」、「環境(背景)」の4つに該当し、さらに7つの下位カテゴリーで構成された(表2に示す)。

表2 保育者と子どもとの繋がりを捉える視点の分類カテゴリと記述例（保育場面動画「写真撮影」の観察記録）

分類	視点 カテゴリ	下位 カテゴリ	記述 数	説明	記述例
接 面 へ 向 か う 身 体 的 行 為	共振 (共鳴)	スキンシップ	16	共振・共鳴に向かう触れ合い	抱きかかえて、膝を椅子のようにして座らせたり、など
		共同	17	一緒に活動、姿勢や動きの共有	一緒に「たかいたかい」をして、カウントダウンのリズムに合わせて、など
		目線	0	お互いの目線を合わす	
		計	33	(15人/17人中が記述)	
	発信 (共振)	身体掛け	12	身体表現・誇張動作・共振的反応	ゆれていた、子ども達に気を配り、常に寄り添って、など
		声掛け	10	意欲喚起、共振に向かう声掛け	大きな声で声掛けし、「わあ」などと声を出すことで、など
		計	22	(14人/17人中が記述)	
	応答 (誘導)	問いかけ	0	問いかけ、聞く	
		見本	0	見本を示す、実演する	
		計	0	(9人/17人中が記述)	
	受容 (理解)	見る	3	個々・全体を見る	全体としての注意を引く、一人一人全員に気を配り、など
		見守る	9	怒らずに見守る、受け止める	無理強いするのではなく、否定的に捉え叱るのではなく、など
		計	12	(0人/17人中が記述)	
環境 (背景)	環境	3	物的環境の構成	「音になるおもちゃ」を使用して、写真撮影のために用意した音、など	
	誘導	0	人的環境の配置、誘導		
	計	3	(3人/17人中が記述)		

6. 考察

- 「スキンシップ」に分類した『だっこ』の記述について、『寄り添ってだっこしたり』という表現がある一方、『強制的にだっこして逃げないようにしていた』など、捉え方の異なる記述が確認された。
- 「身体掛け」に分類した記述のうち、『楽しそうに関わる』や『子ども達と接している』など、様子を伝える記述がいくつか見受けられた。具体的な動作を表記することで、身体性に対する意識や理解を促すことができると考えられた。

上記2点のことから、学生が客観的且つ詳細な観察視点を獲得するためには、保育者や子どもの具体的な動きや、その質に着目させたり、ダンスセラピーにおける運動分析を活用したりすることが有意義であると考えられ、身体性への認知を促す手立てが得られた。

まとめと今後の課題

- 「保育者と子どもがつながる場面に着目する」という教示方法により、先行研究と同様に、保育者の身体的行為に着目する傾向が確認できた。とくに、本調査においては、「共振(共鳴)」カテゴリーの「スキンシップ」「共同」、「発信(共振)」カテゴリーの「身体掛け」「声掛け」に対する記述が多かった。
- 観察者の主観によって捉え方が大きく異なる記述や、抽象的な様子や雰囲気伝えるだけの記述が見受けられたことから、客観的且つ詳細な観察視点の獲得が不十分な面が確認できた。そのため、保育者の身体性に対する認知を促す手だてとして、具体的な動きや、その質に着目させたり、ダンスセラピーにおける運動分析を活用したりすることを検討したい。

文献

- 鯨岡峻(2012)「エピソード記述を読む」 東京大学出版会. P.204.
- 鯨岡峻(2016)「関係の中で人は生きる－「接面」の人間学に向けて－」 ミネルヴァ書房. P.19.
- 眞崎雅子・大橋奈希左・藤元恭子(2023)「リズム表現遊びの場面理解－保育者養成における観察記録の考察－」 京都女子大学教職支援センター研究紀要5 (2)PP.1-10.

※本研究はJSPS科研費22K02400の助成を受けたものです。
この発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。